

“人間と性”

一般社団法人“人間と性”教育研究協議会
〈性教協〉会報 No. 376 2022.10.25



発行：“人間と性”教育研究協議会/発行責任者：水野哲夫
〒151-0071 東京都渋谷区本町1-7-16 初台/ハイソ1006号
<https://www.seikyokyo.org> Tel 03 (3379) 7556

視 点

20年ぶり、広島での夏期セミナー

第41回全国夏期セミナー中国大会in広島が無事終了しました。2002年に広島で夏期セミナーを開催して以来、20年ぶりです。2002年は、性教育バッシングがひどくなり始めた時。広島では、人権教育、平和教育も同時のバッシングで大変でした。それでも、全国から1700人の方たちが借り切ったプリンスホテルに集い、熱く燃えたものです。

今回のテーマは「いま、広島で考える平和に生きる権利—個人の尊厳とジェンダー平等を実現する性教育を—」。まさに広島ならではのテーマでした。ロシア軍によるウクライナ侵攻がいっそう収束の兆しを見せず、新型コロナウイルスもこれまでにない猛威を振るっていました。直前まで無事開催できるのかと冷や汗ものでした。

それも、初めてのハイブリッド開催。特に二日目の分科会、模擬授業は、午前午後とも同時に三か所から配信するという事に緊張しました。が、オンラインプロジェクトの方たち、会場の職員の方たちの尽力により、大成功に終えることができました。ギリギリの段階での会場決定は、城英介さん（広島サークル代表）の逆転大ホームラン。平和公園の中の、数々の国際会議が開かれる素晴らしい会場でした。

記念講演は、原爆小頭症被爆者と家族の会・きのこ会事務局長の平尾直政さんをお願いしました。平尾さんは、地元中国放送の記者でもあります。「原爆が遺した子ら」は、大会テーマにふさわしい講演でした。胎内という、最も安全に守られるべき場で被爆。強い放射能により、生まれながらにして、頭が小さく、知的障がいを持つ、最も若い被爆者が原爆小頭症の被爆者です。一人一人の生き様と死を映像

と共に語って下さいました。多くの方が涙ぐみ、原爆小頭症という被爆者のことは初めて知ったという感想を書いて下さいました。

さらに、広島にはぜひ全国の皆様に聴いて頂きたい方がいらっしゃいます。広島修道大学の河口和也先生です。河口先生は、性的マイノリティーやLGBTに関する研究をし、多くの学生や研究者を育てていらっしゃいます。ゲイの当事者として、「アカー」を立ち上げ、1991年、府中青年の家のゲイ差別事件の当事者として東京都を提訴、原告として闘われました。先生には、これまでの闘いの歴史を語って頂きたくて、結局ランチセミナーとして実現できました。

広く深く、格調高い金子由美子さんの基調報告。素晴らしい実践を報告して下さいましたシンポジウムの発表者の方たち。水野哲夫さんの理論講座は「生命（いのち）の安全教育」という奇妙な名に戸惑う私たちに「せつかくやるならいいものに」と、一つの指針を与えて下さいました。分科会、模擬授業の発表をして下さった方たちの実践の積み重ね。

二か月近く経った今も、無事開催できて本当に良かったと感動の中にいます。ボランティアで助けて下さった方たち、現地の私たちにしっかり耳を傾けて下さった実行委員の皆様、多くの方々にお礼を申し上げます。



河野美代子
（広島サークル・産婦人科医）